学校から家庭へ、広がる製品安全教育

「運命の巻戻士（まきもどし）×経済産業省 小学生向け授業パッケージ」の取組について



経済産業省　産業保安・安全グループ　製品安全課

商品等やサービスの安全に関する領域

学校から家庭へ、広がる製品安全教育
「運命の巻戻士（まきもどし）×経済産業省 小学生向け授業パッケージ」の取組について

経済産業省 産業保安・安全グループ 製品安全課

経済産業省「運命の巻戻士×経済産業省　小学生向け授業パッケージ」：
https://www.meti.go.jp/product_safety/kodomo/special.html

経済産業省では、生活に欠かせない様々な製品に関する事故防止やリコールに関する業務を行っています。我が国では、死亡や重傷、火災などの重大な製品事故のうち、約３割が消費者による誤使用や不注意によって発生しています。特に子どもや高齢者の被害も多いこの課題に対して、子どもたちが製品の正しい使い方や注意点を学び、家族全体で製品事故防止の意識を高めることを目的として作成された授業パッケージ（以下、本教材といいます。）について、経済産業省 産業保安・安全グループ 製品安全課にお話を伺いました。

重大製品事故の約３割は、消費者側に起因
リスクの高い子ども・高齢者を守りたい

▶本教材の概要を教えてください。

経済産業省は令和６年度、 製品安全の重要性を広く国民に訴えるとともに、制度改正に関する事業者への情報提供を行う 「令和６年度産業保安等技術基準策定調査研究等事業（製品安全普及啓発事業　戦略的広報・消費者教育の推進）」を実施しました。この事業では、特に次代を担う小学生や保護者にも注力し施策に取り組みました。本教材はその一環として作成され、令和７年３月に公開されました。身の回り、特に家庭で起こりうる製品事故についてを題材としており、主に小学校３年生～６年生を対象としています。物語仕立てで楽しく学べるよう、小学生に人気の漫画「運命の巻戻士」とコラボレーションをした教材です。

▶制作の背景、目的を教えてください。

制作の背景には、毎年国内で起きている約1,000件の重大な製品事故（死亡、重傷、火災などの重篤な事故）があります。そのうち約３割は、製品自体の不具合ではなく、消費者の誤った使い

方や不注意から起きています。特に、子どもや高齢者による事故の割合が高いことから、本教材では、子どもたちが学校で製品の正しい使い方を楽しく学び、その学びを自宅に持ち帰って家族と共有することで、家庭内、特にリスクの高い高齢者にも正しい知識が広がるように企画しました。子どもたち自身が家庭内の「安全の伝道師」となり、家族全体で製品事故防止の意識を高めることが目的です。

教材は経済産業省製品安全課のウェブサイトにて公開しているため、誰でも自由に利活用が可能です。（公開は2028年３月末までを予定しています。）

リアルなストーリーとワークシートの併用で主体的な学びを
教材の特徴と工夫について

POINT 1　大人気SF作品を介して学ぶ製品事故

小学生に絶大な人気を誇る『運命の巻戻士』。主人公・クロノは、右眼に埋め込まれたタイムマシン「リトライアイ」を駆使し、時間を巻き戻して人々を危機から救う“巻戻士”です。動画では、家庭内で起こりうる様々な製品事故をクロノが未然に防ぎ、ある兄妹の命を守るオリジナルストーリーが展開されます。経済産業省が実際の事例を基に監修を行ったため、リアルな描写が特徴的です。事故原因の解説の後には、家庭内で簡単にできる対策も紹介しており、どうすれば事故が防げるかについても把握し、理解を深めることができます。



©木村風太／小学館



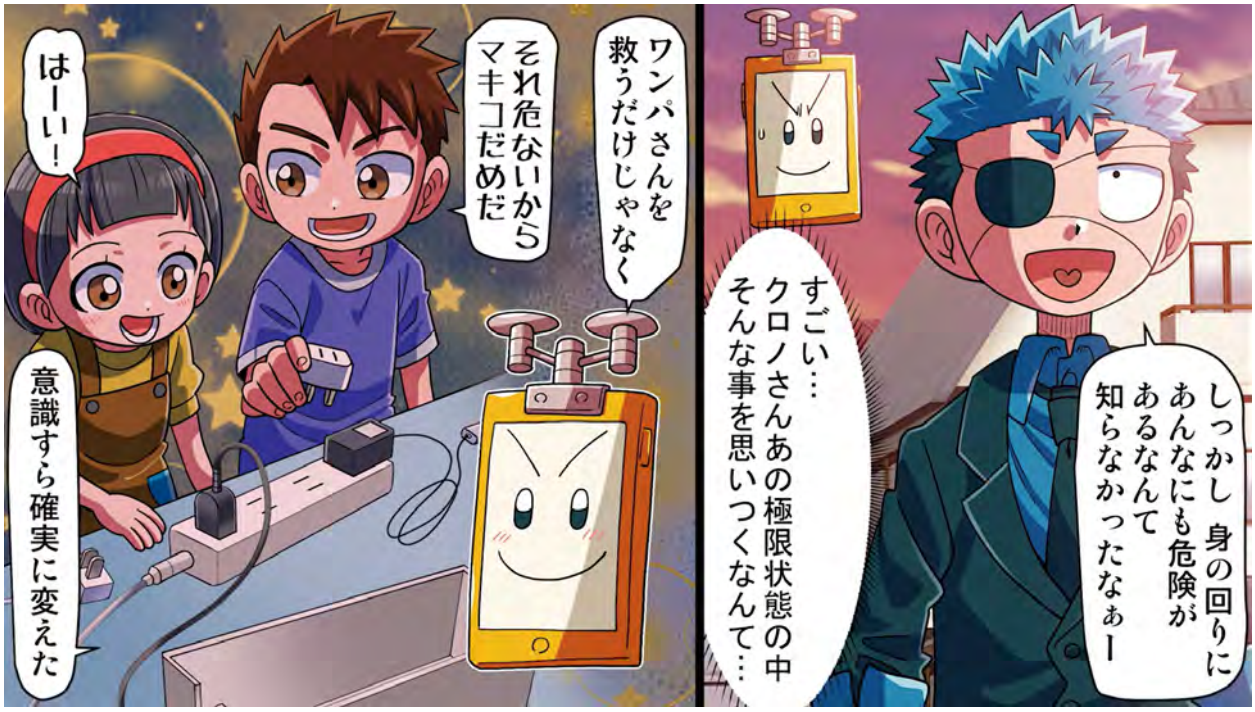
©木村風太／小学館



©木村風太／小学館



©木村風太／小学館



©木村風太／小学館

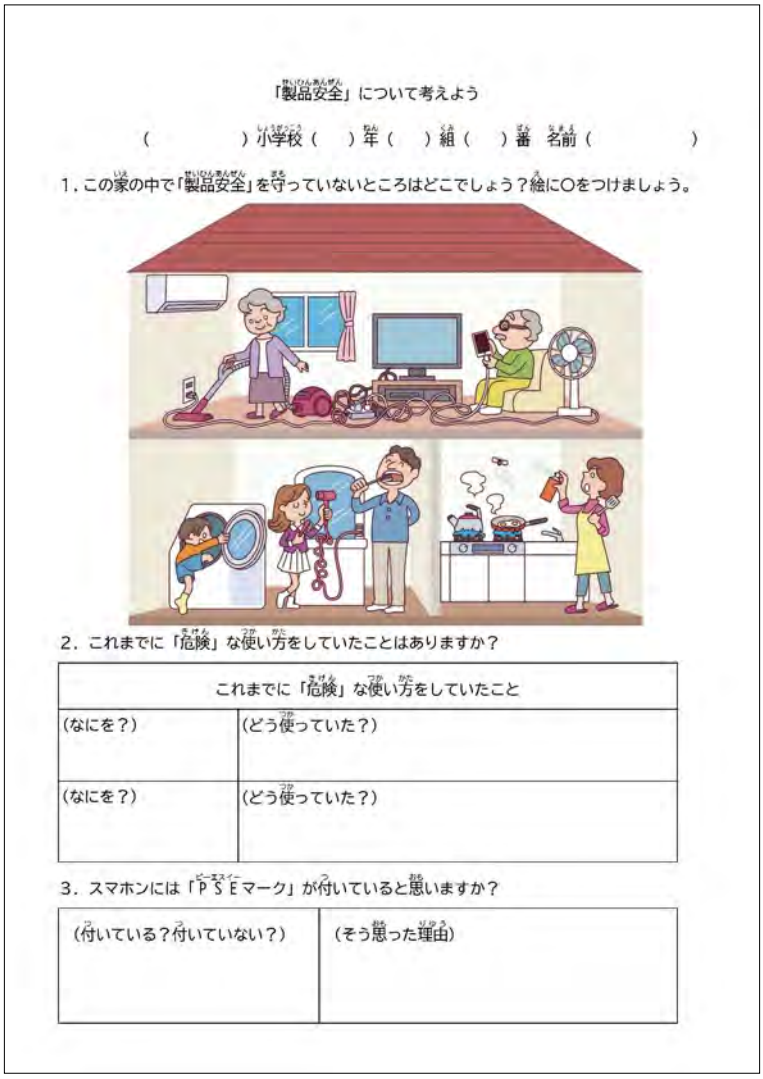
動画では、PSEマークのないモバイルバッテリーによる火災事故や、タンスの転倒事故、自転車のハンドルに掛けていた物の巻きこみによる転倒事故、劣化したバランスボールの破裂事故に至るまで、家庭内で起こりがちな製品事故が多数取り上げられ、主人公の活躍と共に楽しく学ぶことができる

出典：経済産業省ソーシャルメディア公式アカウント（YouTubeチャンネル）「metichannel」より
「使い方を間違えると思わぬ事故に…！身の回りに潜む危険」
（https://youtu.be/KBX-5Ncqp14?si=I3r6qoOXMcIDbnDe）

POINT 2　動画とワークシート双方の活用で、主体的に考えさせる教材を制作

本教材には「運命の巻戻士」とコラボレーションした動画教材（16分）の他、宿題用のプリントと、個人用、グループワーク用のワークシートを準備しています。動画教材に加え、危険への気づきと対応策を促す各種プリントを活用することで、より身の回りの危険性について、自ら主体的に考える機会とすることがねらいです。

ワークシートは、現役の小学校教員の監修の元、受託事業者のクリエイティブディレクターが企画・作成しました。生徒たちが身の回りの危険を身近に考えられるようにするために、個人用のワークシートではイラストでの間違い探しの形式を採用し、そのうえで、その後に続くグループワークでの話し合いにつながる事前準備となるような構成にしました。また、帰宅後の振り返りのための宿題プリントも用意することで、家庭での気づきを促します。



「製品安全」について考えよう

（　　）小学校（　）年（　）組（　）番　名前（　　）

1．この家の中で「製品安全」を守っていないところはどこでしょう？絵に○をつけましょう。

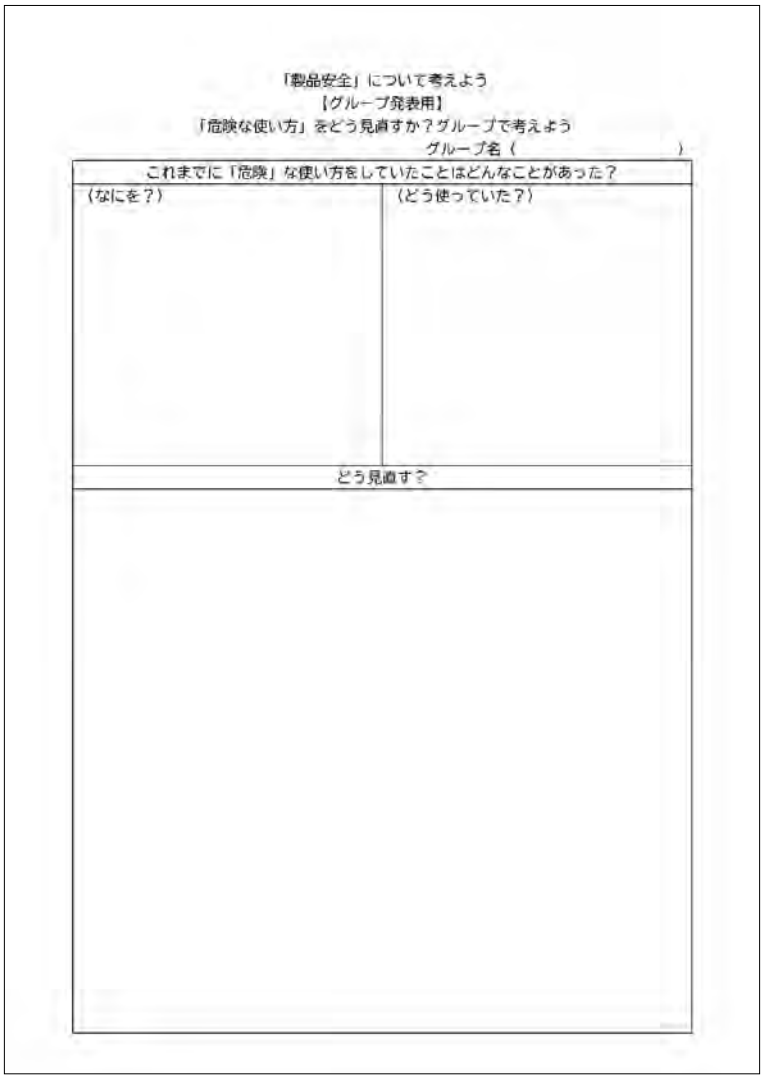
2．これまでに「危険」な使い方をしていたことはありますか？

これまでに「危険」な使い方をしていたこと	
（なにを？）	（どう使っていた？）
（なにを？）	（どう使っていた？）

3．スマホには「PSEマーク」が付いていると思いますか？

（付いている？付いていない？）	（そう思った理由）

個人用ワークシート。動画で学んだことを生かして、今度は自分一人で家の中の危険を探す



「製品安全」について考えよう
【グループ発表用】
「危険な使い方」をどう見直すか？グループで考えよう
グループ名（　　）

これまでに「危険」な使い方をしていたことはどんなことがあった？	
（なにを？）	（どう使っていた？）
どう見直す？	

グループ用ワークシート。グループで共有し、対策を考えることで、自ら思いつかなかった案が出ることもある

POINT 3　授業展開も制作し、先生方にも使いやすく

上記教材の他、これらを活用した50分間の授業展開の案もウェブサイトにて公開しています。授業展開は大きく分けて「製品安全について知る」と「製品安全について振り返る、見直す」の2部によって構成され、児童自らが製品事故の危険性に気づくよう構成されています。実際に授業で活用する際には是非ご覧ください。



製品安全模擬授業における授業展開

1．趣旨・目標：製品の間違った使い方や危険性について動画で確認したり、自身の使い方を見直したりする活動を通して、製品を正しく安全に使おうとする意識を高める。※小学5年生の学習指導要領家庭編では「健康、快適、安全で豊かな住生活に向けて考え」「身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること」も示されている。
2．生徒が用いるもの・・・ワークシート、筆記用具
3．授業に必要なもの・・・動画を再生、視聴するための環境（ネット回線、モニター等）
4．授業の進行について

	時間	区分	内容	資料
製品安全（危険性も含め）について知る	5分	導入（全体）	1　導入（製品安全授業の趣旨説明）	
	16分	展開1（全体）	2　動画 「運命の巻戻士～使い方を間違えると思わぬ事故が！身の回りに潜む危険！【製品安全編】」 ※動画内では、家庭内や放課後等に実際に起こりうる製品事故を計11例紹介しています 授業をされる先生へ ・PS マーク制度は、「特に危害の発生の恐れが高い製品」について、国が定める技術基準を満たすことを義務づけており、その基準に適合した製品にマークを付与する制度です。そのため、身の回りの全ての電気用品に PSE マークがついている訳ではありません（電気用品で対象となるのは 457 品目（2025年1月時点）例：AC アダプター、コンセント、モバイルバッテリー、エアコン等。 ・また同様に、PSC マーク（生活製品。例：ライター、バイク用ヘルメット、圧力鍋等）、PSTG マーク（都市ガス機器）、PSLPG マーク（LP ガス機器）についても対象製品が決まっています。 ・PS マークがあっても事故が発生しないことを保証するものではありません。	動画
	5分	展開2（個人）	3　ワークシート（クイズ形式） ※何がよくないのか？どんな危険があるのか？までを問うものになっています 授業をされる先生へ 質問3について…モバイルバッテリーは火災などの事故が多く PSE マーク制度の対象製品ですが、バッテリーを搭載したスマートフォンは、給電するための製品ではないため対象外です。ではスマホンは果たしてどうでしょうか。 「特に危害発生の恐れが高い製品について、国が定めた技術基準を遵守するよう義務づけており、その技術基準に適合していることを示すのが PS マーク」という前提のもと、自由に議論を行ってください。	個人用ワークシート



10分	展開3（グループ）	4　グループワーク ※ワークシートは、個人ワークシートをもとにグループ毎に話し合って記入できるものになっています	グループ用ワークシート
12分	展開4（グループ）	5　発表 ※担当教員（担任）が発表者を指名し、日頃の学級の状況に関して発表が行われるよう進行してください ※3分×4グループ程度を想定しています ※グループ用ワークシートはモニター投影、もしくは黒板に掲示して発表するなどを想定しています	グループ用ワークシート
2分	まとめ	6　総括 ※宿題用として、実生活と繋げるための課題 「自宅で1つ改善してみよう！」を用意しています	宿題用プリント

※個人用ワークシート内クイズの答え

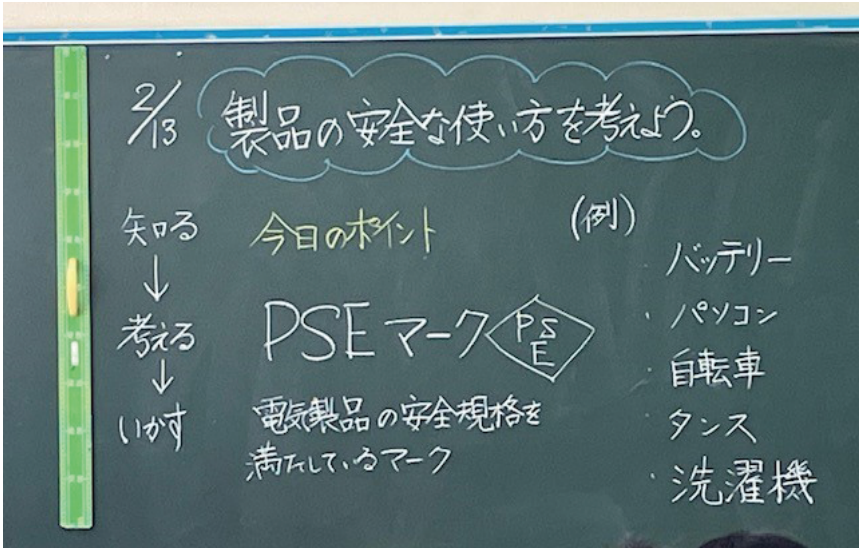
授業展開。動画の補足説明やワークシートの進め方等、教材の活用方法を広く紹介している。スクリプト型式ですぐに授業に用いることができるため、教員の負担軽減にも貢献している

リンク

経済産業省ウェブサイト「運命の巻戻士×経済産業省　小学生向け授業パッケージ」より「授業展開・ワークシート」：https://x.gd/L8gdH

▶模擬授業における、児童の反応を教えてください。

監修した先生方に模擬授業も実施いただきました。先生方からは、「児童の生活に関わりのある課題だったので、取り組みやすそうだった」や、「グループワークでは、お互いの使い方や見直し方について意見を交わすなど、児童の見方・考え方が広がっているように感じた」など、コメントをいただきました。また、児童からも「面白くて頭に入っていきやすかった、誤った使い方について家族に伝えることができた」などと前向きな感想がありました。



模擬授業の様子

動画にとどまらず、誤使用・不注意による事故リスクを低減した製品に対する表彰など様々なツールで事故を防ぎたい

▶今後の活動の展望を教えてください。

経済産業省では、製品事故の減少に向けて、製造・輸入事業者に対する事前規制の他、消費者の皆様に向けて、SNSを活用した発信や、自治体と協力したセミナーの実施など、誤使用事故防止に向けた啓発に取り組んできました。

今後も取組を続けるとともに、モバイルバッテリーなど、事故件数が増えている製品についての呼びかけを強化していきます。特にモバイルバッテリーについては、スマートフォンやタブレットの普及に伴い、子どもたちの身近にもある製品であるため、今回の動画教材にも注意喚起を盛り込みました。

また、令和７年度からは、誤使用・不注意による事故のリスクを低減した製品に対する新たな表彰制度（通称＋（プラス）あんしん制度）を開始しています。製品の側からも誤使用事故防止を進めていくことで、安全安心な市場形成を目指していきます。

これからも、様々なツールを用いて、誤使用事故の低減に取り組んで参ります。

▶消費者教育を担う先生方や、一般消費者の皆さんにメッセージをお願いします。

製品事故は、私たちのすぐそばにあるリスクです。日々の暮らしに欠かせない製品が、時に生命や身体、財産を脅かす存在へと変わってしまうことがあります。悲しい事故を１件でも減らすためには、国や企業などが危険性を適切に伝えると同時に、消費者一人ひとりがリスクを正しく理解し、「自ら守る力」を育てていくことが欠かせません。そのためには、誤使用や不注意を避け、身の回りに潜む危険を察知し、予防する力が必要です。これはまさに、消費者教育の中で育んでいく

べき重要な力です。日頃から取扱説明書やリコール情報を確認すること、製品を定期的に点検すること、そして何より「いつも使っているから大丈夫」と思い込まず、「なぜ危険なのか」「どうすれば事故を防げるのか」など生活に潜むリスクそのものについて、主体的に考える姿勢が求められます。

本教材も、そうした“気づき”を促す一助となることを願っております。授業や講義、家庭の中で製品安全への意識を育む取組に、是非ご活用ください。

▶ありがとうございました。

もっと知りたい方はこちら！

経済産業省ウェブサイト「運命の巻戻士×経済産業省　小学生向け授業パッケージ」：
https://www.meti.go.jp/product_safety/kodomo/special.html
経済産業省ウェブサイト「子どもの製品事故について」：
https://www.meti.go.jp/product_safety/kodomo/index.html
経済産業省ソーシャルメディア公式アカウント「metichannel」（YouTubeチャンネル）：
https://youtube.com/@metichannel?si=Gy_xA1ZzQLT52Umw
誤使用・不注意による製品事故リスクを低減した製品の表彰・表示制度：
https://www.meti.go.jp/product_safety/ps-award/risksystem/